

臨床福祉専門学校
理学療法学科（夜間部）平成 27 年度 第一回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成 27 年 9 月 29 日（火） 19：35～20：15

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会 理事）

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）

吉葉 則和（臨床福祉専門学校 理学療法学科副学科長）

萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務部長）

1. 現行カリキュラムの精査について

※資料「「国家試験対策」・「基礎学習」講義状況について」を中心に説明。

現在、「国家試験対策」「基礎学習」に関する取り組みを実施してはいるものの正式な科目ではなく単位化もされていない。学生の参加義務もないため、招集した学生は「やらされ感」が強い。しかし、学生のレベルは従来に比べて確実に低下しており、国家試験合格のためには一定の強制力を持ってこれらの教育を学生に施していく必要性を感じている。

そのため、次回のカリキュラム変更の際にこの 2 点の教育内容を正式な科目として位置付け、単位化することの検討を始めてはどうかという案が学科内であるが、この方針についてご意見を頂きたい。

（意見交換）

下河辺：今実施している「基礎学習」とは、具体的にどのような内容か？

→漢字の書き取り、作文、医療に関する礼節、礼状、「勉強の仕方」、ありとあらゆること。

→特に、今の学生の文章力の低さは深刻なレベル。

中村：作文は、そもそも小学校で学ぶものとの認識であるが。

→携帯メールや SNS 等の普及のせい、文章を口語体で書いてしまう学生が多い。

中村：地域包括ケアの一環で多職種連携が拡大する中で、他の職種に比べコミュニケーションを苦手とする PT が目立つように感じる。雑談も含めたスムーズなコミュニケーションを苦手としている印象があるので、学生のうちに是非表現力を付けてほしいと願う。

→ある実習先で、スーパーバイザーからのフィードバックの最中に実習生が「予定があるので早く帰りたい」というような趣旨の独り言を言ってしまい、教員が呼び出され

たことがあった。

→専修学校には、大学の進学も無理で就職もしたくないという人間が、親から勧められて来たのではと推測されるケースが多い。それは、自分の意思で来ていない学生が多いということ。

中村：そのような基礎学習を、体系的に教授し単位化して履修させる必要性を感じる。実施にあたってのハードルは？

→シラバスを作成し、それをもとに半年前までにカリキュラム変更の申請を行う必要がある。従って、来年4月入学生についてはスケジュール的に無理であり、最短でも29年の入学生から対象と出来る。そのために、学科として検討の必要性を感じている。

→このような今の学生に対してここまで手を掛けてやっているという点が、広報上のメリット（宣伝要素）にもある。

中村：単位化した後の修正は？

→前項のカリキュラムの変更の手続きにより、対応可能（修正というよりは、新たな変更として）。

石垣：これまでの議論の流れにおいて、「国試対策」や「基礎学習」を単位化することを考えていく方向について賛同いただけるか？

→一同賛成。是非検討してほしい。実施するとすれば、学生に判りやすい科目名が良いのではないか。

2. その他

○下河辺：現行のカリキュラムの中で、「コミュニケーション論」、或いはそれに近い学習内容があるか？

→単体の科目としてはないが、「基礎理学療法学」や「基礎学習」において、ロールプレイングなどを活用しながら行っている。また「接遇」（4コマ）の内容や、礼節の意識を高めるという意味で「保健体育」の枠の中で、柔道（柔道そのものではなく、柔道を通じた礼節として）を実施している。

○中村：多職種との連携の機会を作ることは困難だろうか？ 例えば相談員の実習（ソーシャルワーカー？）は各部門を3日ぐらいずつ回って経験をする。PTも実体験として別の部門を経験すると、他の職種に興味を持つようになるのではないか？

→さすがに、昼夜合わせて100人超の学生を、医療施設でそこまで配属するということは現実的には困難。但し、現場でPTと関わる様々な医療職の方に来て頂いて講義を聞くということなら可能か。仕事の理解という意味では必要性を感じる。

3 第二回委員会について

- ・事務局で日程調整の上、委員にご連絡。

以上